

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

| | | | |
|-----------|---|-----|-------|
| 団体名 | 有限会社 劇団風の子 | | |
| 所在地 | 〒192-0152東京都八王子市美山町1320-1 | 設立年 | 1950年 |
| 運営主体 | 劇団風の子 高尾山演劇倶楽部 | | |
| 事業目標 | <p>・演劇の集団創作を通して、子どもたちの表現力、コミュニケーション能力の工場を目指し、自己肯定感につなげる。登校、不登校に関わらず、子どもたちが自分の居場所であると思える場を、演劇を中心に据えて提供する。</p> <p>・演劇の集団創作を通して、子どもたちの表現力、コミュニケーション能力の向上を目指し、自己肯定感につなげる。登校、不登校に関わらず、子どもたちが自分の居場所であると思える場を、演劇を中心に据えて提供する。</p> | | |
| きっかけ | <p>劇団風の子は1990年に、八王子市美山町に稽古場を新設しました。ここを拠点として多くの芝居を創り、全国の中学校、小学校、幼稚園、保育園、子ども劇場等で公演活動を行なっています。この稽古場と劇団の力を生かし、子どもたちとの文化芸術体験の場をつくっていきたいと思ったことが、この事業を立ち上げたきっかけです。</p> | | |
| 団体・組織等の連携 | <p>劇団風の子、八王子子ども劇場、八王子市中学校教諭、八王子市立中学校演劇部指導員、八王子市小学校教諭と連携を取り、5回の運営会議を持ち話し合った。参加者の募集については、八王子市教育委員会後援をとり、市内の全中学生、小学校4年生以上の全生徒にチラシを配布した。</p> | | |
| 活動場所 | <p>八王子市小安市民センター 八王子市北野市民センター 劇団風の子稽古場</p> | | |
| 活動概要 | <p>(頻度・回数) 9月から2月、第2、第4土曜日(もしくは日曜日)、1回 3時間程度の表現ワークショップや劇の稽古(16回)</p> | | |

○本事業による成果

- ・中学校の演劇部の先生、演劇部の指導者がこの事業に参加。短時間での劇作を学ぶことで部活にそのノウハウを持ち帰ることにより、部活の時間の短縮などにつながる。
- ・発表会が近づくとつれ、子どもたちの活動に対する真剣さ、緊張度が増した。協同して一つの芝居を創ること、コミュニケーションの大切さを自覚することで、方法を自らあみだすに至った過程は大きな経験になった。一人一人、全員が達成感と自己肯定感を得ることができた。
- ・本事業は最終的に演劇の発表を行い、参加児童・生徒たちの友人、保護者など90人を越える観客に観てもらうことができた。そのことにより地域の人々に本事業が周知された。また、アンケートに来年度もこのような企画を実施する場合は参加したいと申し入れがある。
- ・来年度は子どもの参加だけではなく、地域の大人の参加も考えたい。コロナ禍、失われた信頼を気づくためにも幅広い年齢層で地域の題材をモチーフに進めたみたい。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・演劇を一から手づくりすることを今回の企画の中心において進めた。したがって、脚本、大道具、小道具、衣装、音楽は参加児童・生徒たちから原案を出してもらった。そのことでより大きな達成感が生まれた。
- ・劇団風の子の専門スタッフが音響、照明に関わった。専門的知識のあるスタッフと関わりを持つことで、子どもたちは、演劇における役者だけではなく裏方の仕事に直接触れ、知ることができた。
- ・劇団風の子の役者2人が発表会に出演、複数人が舞台転換などに当たった。プロの劇団員の動きに触れることで演劇に対する理解が深まり、子どもたちのモチベーションが大いに上がった。

○運営上の工夫

- ・指導者の中に劇団の音楽担当者や美術担当者を加え質の確保に努めた。
- ・八王子子ども劇場のメンバーにはスタッフとして毎回の練習に付き添ってもらい、子どもへの声掛け、見守りをお願いした。
- ・八王子市内の小学校、中学校教諭が運営委員に参加している。5回行った運営委員会の中で現在の小中学生の総体的な傾向を聞き、参加しているの子どもたちに反映させた。
- ・保護者とは、1回、稽古参観日を持ち、各練習日の前日に連絡を取り合い家庭での様子などを確認して進めた。
- ・子どもたちが原案の大道具、小道具、衣装などは劇団の稽古場に保管した。

○継続的な運営に関する課題・展望

- ・通常、バレエや音楽教室などにかかる費用は週2回で10,000円～15,000円、発表会などに参加となれば10万円を超えることが多い。高尾山演劇倶楽部は16回のレッスンと発表会でトータル20,000円である。これはこの支援事業の助成の上に成り立つ。今後、この活動の継続を考えた場合、財政課題が大きい。
- ・高尾山演劇倶楽部は参加費の設定を低くしている。そのため、多くの子どもの参加があった。今後は行政や地域の民間企業と連携し今回同様に多くの子どもたちが参加できる状況を作り出したい。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・コロナ禍、子どもたちが表現をする演劇は多くの制限をされた現在、大きな力を放つ。演劇の根底にあるものは心の解放である。子どもたちが生き生きと表現する姿はそれを見守る多くの大人の心も動かした。今後は地域の高校生、大学生、大人、高齢者を含めた活動に発展させたい。
- ・本事業は私たち劇団にとって、コロナ下で制限が多い生活を強いられた子どもたちとそれを歯がゆい思いで見守る教員の、そのどちらにも深く関わることで、演劇ができることは何であるかを深く学ぶ機会となった。この事業がなければこのような機会は得られなかったと思う。
- ・本事業は教員の負担軽減に留まることなく、各地域に生きている人たちが生き生きとした文化生活を送るような場を作り出すことではないかと感じている。本事業が文化のプラットフォーム、地域の文化磁場、文化の居場所作り(呼び名はいろいろ生まれると思うが)に発展していくことを強く望む。

○令和4年度 取組状況等

| | | |
|----------|--------|---|
| 参加者 | 人数等 | 16人 |
| | 学校名 | (八王子市立)綾南中学校、加住中学校、みなみ野君田小学校。浅川小学校、上柚木小学校、美山小学校、大和田小学校、いずみの森義務教育学校、第7小学校、陶鎔小学校、横川小学校 |
| | 募集方法 | 参加者の募集については、八王子市教育委員会後援をとり、市内の全中学生、小学校4年生以上の全生徒にチラシを配布した。 前年度参加者より5名が参加。 |
| 指導者 | 人数等 | 指導者3人、指導者助手1人、その他スタッフ12人、運営会議出席者8人。 |
| | 募集方法 | 運営団体の演出家、俳優等。 元劇団員にも指導を頼んだ。 |
| 参加者の移動手段 | | 公共交通機関。駅で集合してスタッフが送迎。家族の車による送り迎え。 |
| 活動費用 | 指導者謝金等 | 指導謝金、専門スタッフ、サポートスタッフは1時間1050円で計算。 |
| | その他 | 運営主体の劇団の持ち物を最大限に利用し、経費の削減に努めた。 |
| 活動財源 | 会費 | 1人20000円×16名 |
| | その他 | 発表公演のチケット代、1000円×90枚 |
| スケジュール | 基本活動 | 9月に説明会を兼ねた体験ワークショップを実施。申込者は、10月から2月まで、土日を中心に月2回、ワークショップ・稽古を実施。全16回。 2月の発表公演の後に、別日でふりかえり1回。 |
| | 年間 | |
| 保険加入等 | | 行事参加者保険に加入 |

【活動の様子（写真添付）】

